

開業致します。そして七月十二日には新京都駅がオープンします。これに色々な施設がついていますが、シアター12000というのが八月九日に開場いたします。そしてまた、ホテル施設は九月十一日、駅舎につきまはインターハイが八月に行われますので、それに合わせて開業ということになります。特にインターハイは全国から六十万人の選手、応援団が京都に入浴するということで、大きなイベントと歓迎し、商売の上でも期待している所でございます。

さらに市役所前の地下の商店街が十月にオープン致します。地下鉄東西線が十一月オープンということもありまして、京都の街がまさにこの厳しい時代であって賑わいの年、あるいは二十一世紀への飛躍の年と京都市では位置付けており、色々な意味で先程申しましたアクションプランを五つの元気策で実行しながら京都の街を元気にしてまいります。是非、私どもの手元でございますので中身をご覧になって活用いただける所は多いに活用いただきたいと思います。

その中で最近、新聞紙上でも

見ていただいたかも知れませんが、四月十八日に京都市ベンチャービジネス企業目録委員会というのを発足いたしました。これは、まさに京都で新しいニュービジネスを発掘しようということで全国に斬新な新規性を有する技術なりアイデアの募集を呼びかけまして、この委員会の構成メンバーには京都大学経済研究所所長の佐和隆光先生や京セラの稲森会長、堀場製作所の堀場会長に委員長なり副委員長に就任頂きました。その他五人の委員には京都で創業したビジネス経験の豊かな先生方に就任頂きまして第一回目の募集は既に始まっております。

既に何件かの申込みもきていますが、第一回目の一次審査を六月中旬に実施いたしました。十月には公表し、優秀と認められました企業、あるいは個人につきましては公表してインセンティブとしては十億円のベンチャー融資を何とかあるいは高度技術研究所にございますインデイベーションを優先利用して頂くなどの施策もあって、高度化していく京都の企業を少しでも増やして行きたいと考えております。

新しく始める方だけではなく、既存の企業の方も既存の技術に新しい工夫を凝らした提案を頂きたいし、皆さん方も新技

術なりアイデアを創出された方も参加をいただきたいと考えております。第一回目の締切は五月三十日になっております。これは年中募集をかけます。ただ、評価そのものは年二回行うことになっていまして第一回目は十月に公表してまいります。マスコミの方も非常に注目しておりますし、あるいはベンチャーキヤピタルでございますとか金融機関からも毎日のように中身の問い合わせがありますので、融資とか投資の結果は十分に役立てると考えております。

その他、南部における経済の視点からとらえた街づくり、南部開発の研究会も経済会の皆さんと一緒に今年中に立ち上げまして京都の街の活性化、京都駅のバップゾーンといったしまして南部を新たに開発していく計画作りに着手していきたくと考えておりますので今後、皆さん方のご支援をお願いしたいと思っております。

今年十二月にCOP3の関連で通産省の指導の元に技術展を行います。実は皆さん方のご商売と関連いたします国際会議が来年の四月、この京都で行われます。第二十回ソフトウェア工学国際会議というもので、全世界の人々が京都にやってくると思います。ほとんどが、学術関係、企業関係、大手のソフトウェア

に関する企業の皆さん方で海外から二百五十名、国内から四百五十名の参加の国際会議でございます。ソフトウェア分野でのこの種の会議といたしましては、世界の規模を誇っているもので、たまたまそれが京都で開催されるわけですから是非、皆さんの仕事にも参考になればと私もは考えております。これに併設して、エクスポを同時に京都で併催したいと、国際会議場の全館を現在、借りきっておられますのでそこで展示会を行うということになっております。京都市としてはシンポジウムを開催したり、あらゆる支援を今

後してまいりますと思いますので、シンポジウム等には皆さん方も一般参加していただきたいと考えております。来年の事ではございますが、こういう機会をとらえて是非参加いただきたいと考えております。

色々私どもが考えております事業もありませんが、皆さんのご意見も十分伺った中で京都が少しでも元気になる為に頑張つてまいりたいと思っております。終わりにあたりまして京都情報サービス産業協会の皆さん方の益々のご発展を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。本日は本当におめでとうござい

三部会の初会合を同時開催

平成9年度の事業計画では会員数の増加状況を踏まえて会員相互の交流を深め融和を図るにより共通の基盤を再構築することを目的に新しい事業推進体制が承認され、三部会体制で運営することになりました。この三部会（企画広報部会、経営部会、技術部会）の発足会は、さる七月二十三日に「ビル葆光」で開催され本格的な活動がスタートしました。企画広報部会では奥村幹事を部長に、サポート役には佐々木氏、竹歳氏が選任されました。今後、協議会の公共的業務を中心に総会併進行事、会報誌発行、会員名簿の更新等を企画します。

一部会活動のスタートを切る

各部会は初回のことであり、各部会員の自己紹介に始まり今後の部会活動の進め方について約二時間をかけて活発な意見交換を行い、協議会活動の更なる充実を目指して部会の役割を相互に確認しました。

会報

編集：協議会事務局

通常総会

平成9年 京情協通常総会

京都情報サービス産業協議会の平成九年度通常総会は四月二十二日、平安会館において午後3時から開催されました。

来賓には京都府から商工部産業推進課参事伊藤秀一氏、同産業技術係長家次昭氏、中小企業総合センター経営課長山下見正氏、また、京都市から商工部産業振興課長中野美明氏、同係長大黒康史氏にご臨席をいただきました。

会員会社は二十社から二十九名（五社が委任欠席）が出席し、始めに白石会長の挨拶があり、議案審議では議長に会長が選出され西田幹事の司会進行で議事が進行されました。

第一号議案から第四号議案まで慎重に審議され全て原案通り承認されました。議案審議が終了した後、来賓の伊藤氏と中野氏から挨拶、山

平成九年度通常総会 会員二十五社で盛大に開催

下氏から府内の業界動向等についての説明がありました。総会閉会のあと、記念講演として陶芸家の今井政之先生から「土と

法人化に向けて 社会的、公共的役割の実績づくり

—白石会長の開会挨拶—

本日は大変お忙しい中、ご来賓の皆様、会員の皆様、多数ご出席を頂きまして誠に有り難うございます。平成九年度通常総会の開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日は平成九年度の事業計画についてご審議を頂きますが、この一年を振り返れば、十一社の新会員の皆様をお迎えすることができました。協議会設立から僅か三年で二十五会員まで延ばすことができました。二十五会員と申しましたが、その規模と各社の特徴ある業態などの両面から見ますとこの協議会が我々の業界のほぼ全容を補足できうる団体になったのではないかと



総会風景

考えております。また、活動実績の面では会員

相互の交流と研鑽を一層深めることができました。さらに、京都府と京都市からご後援を頂きまして、「京と情報文化フォーラム」を開催させて頂きました。また京都産業情報センターに協賛して二千年対応の説明会、そしてアンケート調査の実施事業を行いました。これらの活動内容を考えてみれば社会的、公共的な活動と役割が大変大きいものがあつたと思っております。このように協議会が一步二歩と成長した一年であります。

この間における全会員の熱意は非常に大きいものがございます。さらに本日ご臨席を賜りました行政各位からの絶大なるご支援を頂いたことは非常に大きな励みとなり、改めて感謝を申し上げます。こうした実績を踏まえて平成九年度事業を審議頂くわけですが、我々の経営を取り巻く環境は穏やかな景気回復に向かうといわれてきましたけれど、今一つ実感がわいてこない状態でありまして。一方、市場ニーズは皆さんも御承知の通り、めまぐるしい変化しています。直面する二千年対応問題、さらに、まさに二十一世紀に向かう展望として、いろいろな技術革新が

あり、非常に昏々とした現状であると思えます。こうした変革を克服した時に、我々の産業が必ずや京都の経済に対する活力を与え、一助をになう産業になるはずですし、またそうでなければならぬと思っております。

こうしたことに備える意味もありませんが、協議会の法人化を目指していかねばならないと常に申し上げていますが、それは申しあげてもなかなか大きなハードルが現実には横たわっています。法人化を実現するという意味では出来るだけ早いにかしたとはありません。この点については会員全員が同じ方向に向かって取り組んでいかなくてはならないと思っております。

その意味でも今日の審議を積極的にしていただきたいと思っております。今日だけではなく、あらゆる機会を見つけて、会員相互の中でいかに法人化するかに、積極的に取り組んでいかねばならないと思っております。協議会にとってより充実した活動が図れる前提だと思っております。

普段、幹事の皆さんにおかれましては熱心に論議していただき、我が国が高度な先進国としてあり続けることと条件として高度情報化の推進が必須であります。いて、企画事業等も積極的に考

えて頂いており非常に大きな意味がありますが、これに併せて目標を定めれば、我々はこれからの地域社会に対する役割というものを担うことが必要であり、法人化することが一つの大きなターゲットとなります。この点については機会があれば是非申し上げたいと思っております。私自身もこの点に対する努力は怠りなく取り組んでいきたいと思っております。

来賓の祝辞

伊藤参事(挨拶)

京都府商工部産業推進課の伊藤でございます。京都情報サービス産業協議会の平成九年度通常総会の開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方におかれましては平素から京都府商工行政の推進につきましまして、格別のご理解ご協力を賜り、この場をおかりしまして厚くお礼申し上げます。

う、お願い申し上げたいのであります。この後、会員の皆さんと歓談していただけて、御意見を聞かしていただければ今日の総会の意義が有ると思っております。宜しくお願い致します。併せて今後とも、引き続き暖かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。ご来賓の皆さんにお願いを申し上げます。



伊藤参事

終わりに会員また本日ご臨席頂きました皆さんのご健勝と、この協議会の益々の発展を祈念いたしまして甚だ簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。

代という中で情報化の推進がいかに重要になってくるかという事は言うに及びません。情報サービス産業界におけるコンピュータ関連技術の革新も目覚ましく、近年のインターネットとか携帯電話の爆発的普及ということ、まさにその辺の事情を物語っていると思われま。このように情報伝達の技術革新というのは極めて進んでいるわけでございますが、その中で私達の生活も非常に豊かになっていくという現実があるわけでございます。

しかしながら、ここでなぜこんなマイナスの側面を言うかであるから情報化とはいけないとかで、棒さすといったものでは決まらずに、ご理解頂きたいと思っております。こうした弊害は抱えつつも情報化の中で避けられないと申し上げたわけでありませぬ。

実際、技術の革新というものは豊かな生活をもたらした反面、今まで想像もしなかった色んな負の側面というものと一緒に持ち込んできたことは枚挙に暇がありません。古典的な例では、自動車産業が発達するに従って交通事故が生じてまいりました。最近の例ではクロロンの発達という事で人間性といった問題まで生じています。あるいは脳死の問題が出てくると。このような色んな問題があるわけでございます。

しかしながら、それだけ情報科学の側面を持ちつつも変えられないという事は逆に言えば情報化がそれだけ我々の生活にとってインフラになってきていくという事の証明であろうかと考えております。交通事故を無くすために自動車を無くせと

いったことでも、それは誰も止められないことであります。一万人の交通事故者がいることは確かですが、しかし自動車生活は根底から成り立たない。あるいは、何十億人という地球の生活そのものが成立しない、といった状況にあるわけございまして、まさにある意味では情報化とはそういう局面まで来たかと感じております。

情報化に課せられた課題とは、こうした負の側面というものを克服し、共存しつつ我々の安全な生活に寄与していくようなシステムを構築することだと考えております。皆さん方のソフトウェア業界を始めとし、色々なハードの業界を含めましてその面での責務は非常に大きかろうと、又、よせられた期待も大きかろうと、このように考えておりますので宜しくお願ひしたいと思っております。

先程、白石会長からお話がありました通り、二千年問題というのが最近よく言われております。私もコンピュータのプログラムを書いた訳でありませんが、業務の関連上ソフトウェアを組んだり企画をさせて頂いたことがございますが、経験したことのない方にはこういったことがいかに大き

な影響を持ち、あるいはその修復にいかに大きな金がかかるかというのをなかなか理解してもらえない。日付があらゆる所に組み込まれているのでその修復には色んな場面直さなければならぬと申し上げてもなかなか理解してもらえない。簡単なじゃないかと。二桁上に付け加えたいという話になるでしょうし、そもそも二千年がすぐ来るのがわかってるのになぜ下二桁で始めたんだと。こういうことを言われますと、実際、愚の音も出ない中で、特に中小業者で自前でシステムを組まなかった所にそういった問題があらうかと私の経験からみても考えられる次第であります。

こうした二千年問題は、ある新聞によりますと世界中では一兆ドルを超えるシステム並になるとのことです。業界からみると一種のビジネスチャンスという言い方もできる側面もありません。しかしながら、二千年を迎えたときに今までの安定的な生活が崩れるような状況が頻繁におこると、情報化ということが信用できないとか、まさに逆の面で言われる面もあらうかと思っております。勿論、今、言われておりますのは金の問題もさることながらその時に果たして技術者が対応できるか、あるいはソフ

トを直す為の設計書があるかといったようなところまで来ているわけですが、そういう意味で二千年を迎えた時には何とも無かったと、杞憂と言われるような状況を作っていくか、あるいは情報化に対する信頼というものは失われるのではないかと、私はこのように考えております。そういう意味で我々、行政といったしましても二千年問題への対応を中心にしていきたくと思っておりますし、また皆様方の業界におかれましても社会的責務はあるんだという立場で単にビジネスチャンスというところと見えただけではなくて対応していただければと

考えております。法人化という問題におきましても、法人化の取得というのは色々難しい問題を抱えておりますが、協力していきたいと思っておりますので、皆様方にもよろしくお願ひしたいと考えております。

本日の総会を契機と致しまして協議会設立の主旨を再認識していただけて、組織拡大にご尽力いただきますと共に地域情報産業の振興に益々活躍していただきますことを祈念いたします。簡単ではございますが私のご挨拶とさせていただきます。本日はどうもおめでとございませぬ。



中野課長

来賓の祝辞

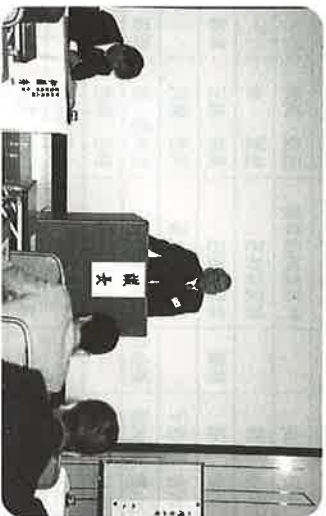
中野課長(挨拶)

ただいまご紹介頂きました京都市の中野でございます。本日は九年度の通常総会が盛会に終わられましたことを心よりお喜び申し上げます。平素は京都市に對し色々御協力頂いておりまして、ことに對しまして、この場をおかりしてお礼申し上げます。

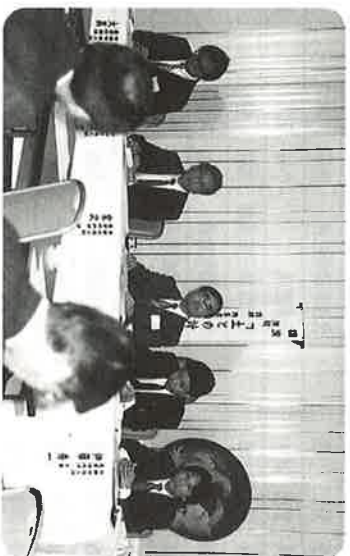
現在の状況は、白石会長の方からもございましたように混沌とした時代と申しますか、カウ

わけております。ただ、カウス混沌とした時代と申しますのは、同時に物が動き流動化して新しい物を作ろうとする時期でありますから、大きなビジネスチャンスがそこに生まれてくる。そのような時代だと考えております。京都市におきましても、こういう不況、ゆるやかな回復と言われながらもなかなか回復感が実感としてない、その閉塞感の漂っている街京都を何とか元気にしたいという事で、昨年の十二月に榊本京都市長が五つの元氣策を発表いたしました。

京情協總會・併催行事アルバム (1997.4.22)



通常総会・白石議長のあいさつ



通常総会・来賓の皆様



陶芸家・今井政之先生の講演



今井先生の作品展示



先生からの作品説明



懇親会会場



交流懇親テーブル

京都情報サービス産業協議会 会 員 名 簿

(敬称略、50音順)

会 社 名	電話番号	(FAX)	本 社 住 所	代 表 者 役 職	氏 名	役 職	担 当 者 氏 名	所 属 部 会
1 株式会社 アークス	075-623-3771	075-623-3781	〒612 京都市伏見区中島堀端町1-1 ルシアン京都ビル	代表取締役社長	千田 哲朗	代表取締役専務	三田 英則	企画広報
2 エスピーメディアアテック㈱	075-924-2222	075-924-2028	〒617 京都府向日市森本町戊亥5番地	代表取締役	宇山 明彦	開発部長	生賀 治	技術
3 オムロンソフトウェア㈱	075-352-7400	075-352-7210	〒600 京都市下京区西洞院木津屋橋通東入ル	代表取締役社長	諸岡 透	監事	奥村 良三	幹事
4 株式会社 ワイブイ	075-322-7070	075-325-2770	〒615 京都市古京区西院矢掛町3-2番地	代表取締役	河合 登世子	取締役副社長	河合 隆司	企画広報
5 株式会社 システムサービス	075-221-0231	075-221-5041	〒602 京都市上京区千本通上長者町下ル草堂前之町104	代表取締役社長	小島 彌太郎	副会長	佐々木 洋	企画広報
6 京都工業㈱	075-641-8278	075-643-4282	〒612 京都市伏見区深草下横縄町1-5	代表取締役社長	吉川 晃		熊谷 和也	技術
7 株式会社 テクノシステム	075-313-5851	075-313-5835	〒600 京都市下京区中堂寺南町17番地 京都高度技術研究所3F	代表取締役	金田 哲郎	会長	金田 哲郎	経営
8 京都電子計算㈱	075-241-5558	075-256-0425	〒604 京都市中京区烏丸二条上ル蔭蔭町260番地	代表取締役社長	白石 雪翁	会長	植田 弘毅	幹事
9 株式会社 リサーチセンター	075-211-2256	075-211-2258	〒604 京都市中京区烏丸東川上ル 京新商工会議所ビル	代表取締役社長	小谷 隆一		竹藏 元則	企画広報
10 ケイエイシステムリサーチ㈱	075-341-1555	075-341-2574	〒600 京都市下京区五条通堀川西入る柿本町579番地五条堀川ビル	代表取締役社長	北山 寛巳		出野 信夫	経営
11 株式会社 ケーシー情報システム	075-465-6700	075-465-9250	〒602 京都市上京区千本通元誓願寺上ル南辻町369-3	代表取締役社長	小室 哲	副会長	西田 公恒	経営
12 株式会社 モアテック	075-211-3121	075-211-3122	〒604 京都市中京区蛸薬師通烏丸東入る パームビル	代表取締役社長	黒土 新一郎		寺下 真介	技術
13 シーエスケイ京都システム㈱	075-344-4780	075-344-4783	〒600 京都市下京区七条新町西入ル夷之町686-3	代表取締役社長	池田 昭		池田 昭	経営
14 株式会社 デイ	075-256-7777	075-255-1054	〒604 京都市中京区烏丸竹屋町西入	代表取締役社長	堂山 道生		小林 正人	企画広報
15 島津エス・ディー㈱	075-841-9112	075-812-1453	〒604 京都市中京区西ノ京三条坊町2-11	代表取締役社長	岡 正太郎		北村 登	技術
16 株式会社 エース	075-341-5283	075-341-5270	〒600 京都市下京区藏小路通室町西入ル マスギビル内	代表取締役社長	井上 太市郎		井上 太市郎	経営
17 株式会社 ワン	075-344-0101	075-344-0130	〒600 京都市下京区松原通室町東入ル玉津町29番地 マタビル5F	代表取締役社長	猪飼 昭嗣		上野 和夫	技術
18 株式会社 システムサービス	075-344-1122	075-344-0774	〒600 京都市下京区烏丸通仏光寺下ル大政所町680住友生命烏丸通ビル	代表取締役社長	古川 峰生	幹事	中田 一夫	経営
19 竹菱電機㈱	075-325-2179	075-325-2256	〒615 京都市古京区西京極豆田町2-9	代表取締役社長	早瀬 通明		堀井 安彦	経営
20 中電コンピュータコミュニケーション㈱	075-662-5521	075-662-5522	〒601 京都市南区東九条南河辺町3-4番地	代表取締役社長	大木 邦男		岡田 明	企画広報
21 株式会社 新システムズ	075-344-7880	075-344-7888	〒600 京都市下京区堀川通藏小路下ル糞塚川町293-1住友生命四條堀川ビル	代表取締役社長	清水 正直		小寺 實	技術
22 日本コンピュータファシリティー㈱	075-351-1881	075-341-1517	〒600 京都市下京区烏丸仏光寺上ル二帖半敷町646番地	代表取締役社長	田中 義則		亀井 睦雄	経営
23 山川ビジネス機器㈱	075-352-1550	075-352-1551	〒600 京都市下京区河原町通五条角(山川ビル)	代表取締役社長	山川 常七		桑名 宏	企画広報
24 株式会社 ニシ	075-255-6282	075-255-6660	〒604 京都市中京区烏丸通三条下ル 大同生命ビル6階	代表取締役社長	藤園 治清		佐々木昭彦	技術
25 ワールドビジネスセンター㈱	075-662-1200	075-662-7050	〒601 京都市南区西九条東御幸町25-2	代表取締役社長	柳田 稔		池田 達夫	技術